

今年度も残すところあと2ヶ月足らずとなりました。1年の中でも最も寒い時期を迎えています。先日も「10年に1度の最強寒波」と報じられ、神戸でもなかなか見ることができない雪がたくさん積まりました。公共交通機関もストップし、道路も凍結により多くで通行止めとなり、園としては臨時休園となりましたが、それぞれの場所で雪遊びをして楽しんだという話を聞き、これはこれで良い体験、経験ができたのかな…と思います。

子どもたちにとっては、このような寒さの中にあっても楽しいことや嬉しいことがあると、寒さに負けず活発に遊ぶことができます。「子どもは風の子」と呼ばれる所以でしょう。しかし大人になっていくにつれて、「きっと寒いから」とか「冷たいから」など目先の楽しさや喜びだけではなく、同時に不安や心配事も考えるようになります。それが時に邪魔をして行動にストップがかかることはないでしょうか？これは、きっと子どもたちよりたくさんの経験をしているからこそ色々な見通しを立てることができるからと思われまます。

子育てにおいても、自分の子どもが失敗したり、嫌な思いをしてほしくない願うばかりに、子どもより見通しが立つ分、ついつい先回りしてあれこれ指示を出して、親としては心配の、でも子どもたちにとっては経験の「芽」を摘んでしまうことはないでしょうか？本来は、自分自身でやってみて、失敗して、たとえ嫌な思いをしたとしても、「次はこうならないように気を付けよう！」と学び、繰り返しながら少しずつ行動を変えていくのが成長につながります。子どもたち自身が今この時に与えられる様々な試練をどう乗り越えていくか？乗り越えたという結果ではなく、その経過がとても大切です。親が先回りし、あれこれ手を出すことで、子どもたちが何も感じず試練を乗り越えたとしても、それは本当の意味で乗り越えたとは言えません。

しかし、すべてを1人で解決できず、様々な援助が必要な時ももちろんあります。子どもたちと関わる私たちが、先回りして前に立って導くのではなく、横に立って応援したり、後ろから支えたり、時には、「親」という字のごとく、木の上に立って見守りながら、乗り越えて前に進んで行くのは子どもたち自身であることを忘れず、様々な経験、体験を積んで成長して欲しいと願っています。

### 【年主題】

『つながって』～今、わたしを生きる～

### 【年主題聖句】

主がすべての災いを遠ざけてあなたを見守り

あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも

主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。（詩編121編7～8節）

2月主題 「なかまと心あわせて」

聖句 「ここに愛があります。」（ヨハネの手紙I 4章10節）